

# 太宰府の文化財

414

## 横岳八幡宮社殿 白川

横岳八幡宮は、太宰府市役所北方の四王寺山南麓の横岳崇福寺跡に隣接してひっそりとあります。神社の

創建時期など詳細はわかっていませんが、横岳集落の氏神として大切にされてきました。



社殿側面



社殿正面



神殿上部の造り

神社の社殿は狭い境内に東向きに建てられています。拝殿の構造形式は、正面三間、側面四間、切妻造の妻入りで、屋根は棧瓦葺です。正面には向拝(礼拝のために張り出している部分)があり、面取りをした角柱に

水引虹梁を渡し、向拝柱上には大斗肘木をのせています。その柱上両側にはやや細長く伸びた木鼻があります。窓は風蝕が目立ちますが、連子窓となつています。拝殿内部をのぞくと、天井は棹縁天井で、床は板張りとなつていて、かつてはここで、お籠りなどの神社の行事や集会などが行われていました。

拝殿の奥には、ご神体を祀る神殿(本殿)があります。現在は拝殿の中心に取り込まれていますが、当初は、拝殿から張り出していた状態もしくは離れて建てていた可能性もあります。神殿の構造形式は、一間四方で、入母屋造か寄棟造とみられます。四隅の柱は円柱で、柱上には平三斗を置き、木鼻があります。神殿

は非常に残りが良く、厳かな雰囲気を残しています。

この社殿について、本格的な調査は行われてないため、わからないことも多いのですが、神殿は、木鼻の渦の彫りがやや浅く、きれいな円を描いていないこと、そして、拝殿入口上の虹梁の模様(絵様)が渦と若葉がつながり、花のような形になっていることなどから、18世紀前半頃の建築と推測されます。これは、観世音寺北側の日吉神社拝殿(正徳4(1714)年)と同時期に建築されたものかもしれません。しかし、向拝については、水引虹梁の絵様が、拝殿の虹梁より彫りが深く、若葉の雰囲気は失われ、また、その虹梁両側にある木鼻が細く伸びた感じから、神殿や拝殿が造られた後に、遅れて建築されたことがわかります。

横岳八幡宮社殿は全体的にシンプルで派手さはありませんが、風雨に耐え、細くなった柱が物語るように、太宰府市では数少ない江戸時代に建築された社殿として大変貴重なものです。

文化財課 宮崎亮一